

日時：令和3年7月15日（木）10：00～12：00

場所：市役所 C311～C313会議室

出席者：下平会長、畠中委員、岩戸委員、樋口委員、宮澤委員、柴田委員、菅沼委員、森下委員、
稲垣委員、篠田委員、西塚委員
高田副市長（行財政改革推進本部長）、櫻井総務部長、佐々木財政課長、岡本人事課長、
林企画課長、鎌倉庁内デジタル化推進担当専門幹

欠席者：勅使河原委員、中山委員

1 開会

2 あいさつ

（下平会長）

今年度第1回目の行財政改革推進委員会となる。本日は、指定管理者制度を導入している施設の管理運営状況について、第三者評価を行う。施設ごとの実績等から評価した結果について説明を受け、評価していただく。

今年3月に飯田市行財政改革大綱（2021～2024年）が策定され、それに基づく実行計画が示された。本委員会としても、計画の策定に関わってきたが、本年度から4年間の取組として、着実に進行管理を進めていかなければならない。これらの取組を推進していく上で、本委員会の意見を聞く機会が設けられているので、活発な議論をお願いしたい。一方で、せっかく決めても市民に危機感が無いと進んでいかない。例えば健康について、自分自身の健康は自分で守り維持していくということが基本だと思うが、飯田市でもプラスチック事業を実施し、いろいろな形で市民に健康管理をお願いしているが、実践しないと意味がない。市民の皆さんにも危機感を持っていただく中で、行政としても運営していくことが望ましい。

昨年から新型コロナウイルス感染症の感染が拡大している。最近では、東京オリンピックが無観客となるなどいろいろな問題も出てきている。ワクチンについては不足になるという話もあり、コロナが収束するには程遠い。こうした中、コロナ対策を担う医療関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げます。SNS等いろいろな情報が拡散しているが、きちんとしたエビデンスがあるわけではない。私たちも、すべきことをするというのを考えて、健康に気を付けていきたい。

このような状況下ではあるが、当推進委員会の開催にあたり、多くの皆様に出席いただき感謝申し上げます。しっかりと協議していただくようお願いする。

（高田副市長）

新型コロナウイルス感染症に関して、この地域は今のところ、感染者数が落ち着いた状況で推移している。市民の皆様、事業者の皆様それぞれにご留意いただいております。ワクチン接種について、一生懸命やっているが、ワクチンの供給量や接種会場のことなど、国や県のいろいろな動きがあって、対応に苦慮している。希望する市民の皆さんに、できるだけ早く接種していただけるよう進めて参りたいと思っているのでよろしくお願いしたい。

行財政改革に関連して、市役所内部で取り組んでいる点を二点申し上げます。一点目は、市長が職員への訓示で指示している対話と現場主義、風通しの良い職場づくりを念頭におき、行革の実行計画にもあ

るが、行政サービスのデジタル化という喫緊の課題もあり、そうした対応のため、市役所内部の業務体制、組織体制の見直しを進めているということ。二点目は、今後10年間の財政見通しを作成した上で、財政運営の状況を把握し、チェックしていただくための指標の設定を検討しているということ。この二点のどちらも今年度の行革の実行計画と関連しているので、第2回以降の行革推進委員会で説明させていただきます。

本日は、指定管理者制度の運用状況について評価していただくのでよろしくお願ひしたい。

3 協議事項

(1) 令和3年度に指定管理の協定期間が終了する施設の実績評価について 資料1-1～資料2
概要について【佐々木財政課長説明】

No. 1 飯田市障害者生活ケアセンター【小林福祉課長説明】

No. 2 飯田市中部デイサービスセンター【筒井長寿支援課長説明】

(樋口委員)

二つの施設が同じ建物で運営されているということで、アンケートによる利用者の評価について、調査人数、回答人数、回答内容が同じものが記載されているが、それぞれの施設のアンケートの回答者が何人か、その結果がどうかというのがあればお聞きしたい。

(小林福祉課長)

共生型の施設で、障害を持たれた方と高齢者の方が混ざる形で運営している。厳密に障害者と高齢者とが区別されていないので、アンケートも分けていないため、詳細は持ち合わせていない。

(樋口委員)

画像の説明で、交流ホール2について、障害者の方や高齢者の方が利用する施設であり、交流ホール1は車いすの利用者を見かけるが、交流ホール2は舞台があって階段で上がるようになっている。第三者として見たときに、障害のある方や車いすの方が、交流して楽しむ環境としてはハード的に不自由ではないかと感じる。財政的に見ると、赤字があって大変なのかも知れないが、障害のある方や高齢者の方が利用していただくために、ハード的な面での改良をお願ひしたい。

(筒井長寿支援課長)

交流ホール2について、設計時の割り当てとすると、主な対象者は高齢者ということで、比較的元気な方を対象としていたため、ステージを設置してその上で何かをするということを想定していた。バリアフリーの方が安全性は高まるので、ご指摘いただいた点については、指定管理者との協議の中で、財政的な予算の位置づけ等も調整しながら検討していきたい。

No. 3 飯田市南信濃障害者等活動支援センター【小林福祉課長説明】

No. 4 飯田市南信濃デイサービスセンター【筒井長寿支援課長説明】

(岩戸委員)

利用者の低下と、それに伴う収支の悪化が見られ改善の余地があるとのことだが、利用者の低下要因と、それに伴った収益悪化の要因について、具体的な指導方針があればお聞きしたい。

(筒井長寿支援課長)

南信濃デイサービスセンターの改善の方向性について、遠山地区を対象としたデイサービスということで、デイサービスや在宅のサービスについて、どれくらいの見込みがあるかということは、将来も含めて検討しているところであり、その状況を判断しながら進めていく。南信濃地区の特殊性として、必要な方でもサービスに結びついていない面もあるように聞いている。包括支援センターと協力しながらそういったところに手を入れることで、本当にサービスが必要な方が、きちんとサービスを使っただけの状況にしながら、利用者を増やしていこうと思っている。

(宮澤委員)

入所したくても、収入と施設の利用料金との兼ね合いが難しいことがあるかと思う。飯田市との合併前から福祉の里は有名だった。その辺のところを考えながら、行財政運営を進めてほしい。地区の人たちの収入状況と入所料金との兼ね合いはどうなっているのかお聞きしたい。

(筒井長寿支援課長)

南信濃デイサービスセンターは入所施設ではなく、通所がメインで、朝、施設へ行って食事の提供や風呂のサービスを受けて、夕方戻るというサービス。利用料については、介護保険制度の中で一定の基準があるので、それに沿った運用をしており、その方の所得に応じて原則一割負担となっている。その他、特に低所得者の方には別の制度として、例えば食事代の一部を補助するということをしており、低所得者に関わる支援というものはしっかりPRしていただいている。ケアマネージャーもプランを作る中で、漏れのないように対応しているので、基本的には低所得者に対する支援を受けていただく中で利用できる状況になっている。

(宮澤委員)

サービスを受ける人たちにはプライドがある。利用についての説明で、例えば民生委員や職員が出向いて対面で説明して、尊厳は大事にするということを言ってあげないと、年齢が上の人たちは、市の厄介になりたくないという考えがまだある。補助のことも含めて丁寧に説明してあげてほしい。大変だと思うが、対話をしっかりして利用者の尊厳を大事にしながら対応していただきたい。

(下平会長)

要望としてお聞きする。

No. 5 飯田市南信濃高齢者共同住宅【筒井長寿支援課長説明】

(菅沼委員)

指定管理者へのヒアリングの結果について、「設置当初から、利用者の利用費用が同額であり、改定の必要性を感じている。」ということで声が上がっていると認識している。一方で、決算額を見ると、それほど大きな赤字決算ではなく、少額ではあるが黒字決算になっているということを考えると、改定の必要性を感じているという背景を把握していればお聞きしたい。

(筒井長寿支援課長)

施設の大規模修繕については、市で行っている。一方で、共同住宅なのでいわゆるアパートのような扱いで、そこに設置されているIHなどの機器が、どうしても更新しなければならないというものも増えている。人によって使い方にも差があり、利用者にある程度負担いただくのがこういった住宅の性質としては相応しいだろうということ。月額を示してあるが、かなり低額で運営をしている。そういうことを考慮して、もう少し負担していただくよう検討したいということで調整をしている。

(菅沼委員)

利用者に丁寧な説明をしていただくよう配慮をお願いしたい。

No. 6 飯田市旧飯田測候所

No. 7 飯田市21世紀環境共生型モデル住宅【田中環境モデル都市推進課長説明】

(菅沼委員)

旧飯田測候所について、指定管理者制度では令和2年度の収支はほぼプラスマイナスゼロであったが、直営にした場合の収支見通しについてどのように考えているかお聞きしたい。

21世紀環境共生型モデル住宅について、制度導入によるメリットの部分で、まちづくり委員会が指定管理を行うことにより、民間事業者としてのノウハウや、経営手法が活かされているといったことが書かれているが、まちづくり委員会としての経営手法とはどういうことを指しているのかお聞きし

たい。

(田中環境モデル都市推進課長説明)

旧飯田測候所を直営とした場合のコストについて、指定管理料に含めずに自主事業として指定管理者に行っていた事業があるが、当課で行えるものは行う。環境に関する事業については、直営で行っていくため、その部分の支出は減る。この期間については、地元の橋北まちづくり委員会の皆さんと、ここの施設をどう活用していくのかということを検討していくが、そのことはコストとは別の話になる。本来指定管理者が事業として展開していた部分が減額になり、その分は当課で持っている予算でどれだけできるかということだが、現有の予算で対応していく。昨年予算と比べれば結果として直営の1年間は減るのではないかと考えている。1年間の検討が終わった後はしかるべき立て直しをするので、この額になるかどうかはわからない。

21世紀環境共生型モデル住宅については、橋南まちづくり委員会が指定管理者として、地元に着目した活動を展開している。まちづくり委員会が、この施設について説明していただく方を雇用して、対応している。この施設について説明するにはガイドとしてかなり知識が必要で、以前指定管理をしていた方を地域で雇用する形で運用している。経験に基づく説明やお客様の対応が大変スムーズにできていて、これまで培ってきた経験が遺憾なく発揮されている。橋南まちづくり委員会としては、中心市街地の賑わいの創出と、環境に配慮した住宅の説明により付加価値を高めていくということで、組み合わせて展開している。

No. 8 飯田市保健休養施設

No. 9 飯田市山本都市農村交流促進施設【宮沢観光課副参事説明】

(下平会長)

保健休養施設について、地元のまちづくり委員会等と協議しながら指定管理に向けてやっていくということか。

(宮沢観光課副参事)

地元の皆さんが、地域としても有効に使っていきたいという思いを持っていただいているので、そうした思いを大事にしながら、より有効な活用ができるよう進めていきたい。

No. 10 飯田市北田遺跡公園【馬場文化財保護活用課長説明】

(下平会長)

利用状況について、利用者数が空欄だと何も利用されていないように見えてしまうが、地域の行事等には活用しているという理解でいいか。

(馬場文化財保護活用課長)

屋外の自由に見学できる施設なので、利用者数は把握していない。地域の行事等には利用している。

No. 11 飯田市野底山森林公園【原林務課長説明】

(宮澤委員)

指定管理者へのヒアリングの結果について、「特に公衆トイレについて早急な改善が求められている。」とあるが、いつヒアリングを実施して、今どうなっているかお聞きしたい。

(原林務課長)

公園内にいくつかトイレがあるが、古いトイレであり、このトイレの改善については、長年の懸案事項になっている。定期的に野底山森林公園の管理委員会を開いていて、直近では5月18日に開催した。その時も、トイレについて早急に改善してほしいと要望をいただいているが、現在、まだ改善できていない。

(宮澤委員)

観光ガイドの会に入っている。観光ガイドとして気になるのが、公衆トイレの改善で、一度に全部ということは大変なので、毎年計画的に改修等をお願いしたい。市議会の一般質問でもそのことを取り上げている議員がいたが、飯田市の公衆トイレは、汚いし古いし数が少ない。観光が発展するためにはまずトイレが大事なのでそこを早くお願いしたい。

(下平会長)

トイレ事情について全般的な話なので、行政で検討いただければと思う。

No. 12 飯田市下久堅ふれあい交流館【橋本ムトスまちづくり推進課専門幹説明】

※ 質疑なし

※ 実績評価全体を通じての質疑

(柴田委員)

No. 1、2、4、6の施設について、赤字決算だが、これについてはどこから補填されるのか。「現在収支が悪化しており課題と認識する。」という記載があるが、どのように改善する計画が練られているかお聞きしたい。

(小林福祉課長)

No. 1 障害者生活ケアセンターについて、赤字の決算ではあるが、社会福祉法人が運営するいくつかの施設のうちのひとつとしての決算となっている。赤字額を改善する手法として、利用率を上げていくことによって収入を増やすことと、人件費につて、職員配置を見直す中で赤字の削減を図っていくという提案をし、改善に向けた努力をしていただきたいと考えている。市内でもいくつか民間の障害者施設が運営されているが、経営状況は安定しているので、利用率の向上と、人件費の削減という部分が、赤字から脱却する一つの手段だと考えている。

(柴田委員)

補填はどこからするのか。

(小林福祉課長)

基本的には、障害者の給付費で賄っていただくということで指定管理をやっていただいているので、補填はしない。法人全体の中で、その赤字部分を埋めていくという考え方になっている。

(柴田委員)

赤字決算の全部の施設 (No. 2、4、6) がそういうことか。

(筒井長寿支援課長)

No. 2 中部デイサービスセンターは、障害者生活ケアセンターと同一の施設で、基本的には一体として障害者サービスと高齢者サービスを提供してきているので、状況としたり同じ。

No. 4 南信濃デイサービスセンターは、遠山地区の特殊性もあるが、必要な方が必要なサービスを使っていただくことが大事なので、利用者の掘り起こしができるかどうかを指定管理者と一緒に検討しているところ。

(田中環境モデル都市推進課長)

No. 6 旧飯田測候所は、消耗品費が少し伸びている。指定管理協定の中で、指定管理者と飯田市との負担区分をあらかじめ決めてあるが、その基準でいくと指定管理者に負担していただかなければならない事案があった。59,000円のマイナスについては、指定管理者の了解の上で負担していただいた。

(下平会長)

第三者評価のまとめとして、

- ・個別施設ごとの評価で出された意見と、各委員が記入した「評価集約票」をもって、第三者評価の結果とする。
 - ・全体に関する意見について、それぞれの施設で対応することとして第三者評価のまとめとする。
- 以上のとおりでよろしいか。

(各委員)

異議なし。

3 協議事項

(2) 行政サービスの刷新に関する意見交換について【佐々木財政課長説明】

テーマ1 市民サービスの改善について【利便性】

(樋口委員)

市役所の近くに住んでいるので、用事がある市役所へ行き、何かあれば家へ帰ってまた出直すことができる。市役所から遠い方の意見があれば伺いたい。

コロナの影響でいろいろな会議や行事が縮小とか、中止になったりしている。やらなくても良かったのかなという感想を持つものもあり、そういったことを見直す良い機会になった。

(宮澤委員)

地元の鼎自治振興センターの職員はすごく融通が利いている。市でもコンシェルジュ宣言というのをやっているが、鼎自治振興センターの職員は、市民が窓口へ行くと担当ではない職員が出てきて、待つことなくすぐに対応してくれる。そうした中で、このICT化の推進は大事だとは思いますが、高齢者の中には困る人もいる。慌ててスマホやパソコンを買ってもわからないし、こうした流れに付いて来るといふことではなく、そういうのをやらない高齢者に対しても、今までどおり優しい対応をしていただきたい。

テーマ2 経費の節減や事務量の削減について【効率性】

(樋口委員)

追手町小学校の放課後児童クラブのスタッフをやっているが、はがき等郵送での連絡を、可能な人は電子メールに変更した。

橋南の民生委員会では、連絡網の連絡を電話で行っていたが、ショートメールに統一した。高齢の方もだんだん慣れてきてメールで連絡している。

Zoomでの総会や講演会に参加した。今後はZoomでの体験も含め、橋北地区との合同研修会を計画している。

(下平会長)

竜丘地区の自治会でも電子メールを利用して、できるだけ文書を少なくするようにしている。役員のなり手が非常に少なくなってきたという環境の中で、わざわざ自治振興センターへ出向かなくても、自分で対応できるような方向に進めている。これからますますこういったことが進化していくのではないかなと思う。

(菅沼委員)

職場のことを紹介させていただくと、コロナ禍ということで、基本的には全て分散勤務という形をとっている。その中で、メールを出すほどではないものについては全てチャットでやるとか、分散勤務をしているので、その人のところへ行って話をしないといけない場面についても、移動時間がもったいないということで、自席で対応し、会議についても同様に移動時間を削減するという取組をしている。分散勤務の中でもコミュニケーションが希薄にならないように配慮しながら営業を進めている。(鎌倉庁内デジタル化推進担当専門幹)

分散勤務について、飯田市においては、コロナの感染状況に応じてBCPという業務継続計画を発動するというようになっていて、レベル4になると自動的に分散勤務で、職場の人数を5割減らす体制を組むようになっている。2回ほど分散勤務の状況になったが、事務所の場所を確保することが難しいということがある、この会議室やりんご庁舎、文化会館を分散勤務の場所として使い、そういうところで仕事ができるように環境も整備した。現在は通常の体制ではあるが、そういった事態が発生したときには、分散勤務ができる体制を取っている。

自席でのウェブ会議ということは行っていないが、Surface という端末が自治振興センターや部課長、各課へ配備されている。こういったものを使ってウェブ会議がいつでもできるような状況になっている。自治振興センターの所長会もこうした端末を使いながら、会議ができる状況になっている。

4 今後のスケジュール

○今年度の行財政改革推進委員会の開催予定

- ・第2回（令和3年12月～令和4年1月頃 予定）

今後の財政見通し、公共施設マネジメントの取組ほか

- ・第3回（令和4年3月末頃 予定）

行財政改革大綱に基づく実行計画（令和3年度の取組・令和4年度の計画）ほか

5 その他

事務連絡（事務局）

あいさつ

（高田副市長）

委員の皆さんにおかれては、約2時間に亘り、ご協議ご検討いただき感謝申し上げます。本日賜ったご意見は、行革本部会議で共有し、活かせるところは活かしていきたい。ご指摘があった公衆トイレについては、いろいろなところで話題になるが、障害者の皆さんを含め市民の皆さんが気持ちよく使っていただけるよう、できるだけ改修を進めていきたいと思っている。今後とも引き続きご理解ご協力をお願いしたい。

6 閉会